令和６年度第１回　大津市歴史博物館協議会　議事録

日時：令和６年１２月１１日（水）１４時～１５時３０分
場所：大津市歴史博物館　講堂
委員：10 名（会長、副会長を含む）
事務局：4 名（館長、副館長を含む）
傍聴者：1 名

《次第》
１.開会
２.歴史博物館長あいさつ
３.委員紹介
４.会長・副会長選出
　会長に宇野委員、副会長に赤阪委員を選出。
５.議題
　(1)　歴史博物館基本的運営方針の見直しについて
6. 閉会

《議題》
会長
　議題(1)歴史博物館基本的運営方針の見直しについて、事務局より説明をお願いする。

事務局
　議題(1)について説明。

会長
　基本的運営方針について、本日の協議会で出た意見をもとに修正し、本年度の第２回の協議会で確認する予定である。
　まずは、過去５年間の自己評価について、委員より意見を聞きたい。

委員
　教育委員会から市長部局に移ったとのことだが、博物館法の適用外になるのではないか。その点はどうか。

事務局
　教育委員会ではなくなっても博物館法の適用外とはならない。

委員

大津は何もないという人が多い。幅広い世代に向けた情報発信や教育現場に出向いているという活動はよいことである。引き続きぜひ、博物館から積極的に発信するという活動を続けてほしい。

法律の枠組みがあり、難しいと思うが、博物館という名称が少し敷居の高さを感じる。文化を発信する拠点であるということを、名称やコンセプトを含めて受け身ではない議論した方がよいと思う。

副会長

p12 に「広く市民ギャラリーとしても貸し出す」とあるが、歴史に関するものなど、何か制限などはあるのか。

事務局

市民ギャラリーについて利用規定がある。また、利用状況は参考資料 p26 にあるとおりである。歴史の内容だけでなく、美術系や書道などの利用が多い。保育園など学校関係者にも利用していただいている。

副会長

（博物館の外などで）マルシェなどはできるのか。

事務局

参考資料 p28 に記載があるが、３年前から秋の企画展の時期に合わせて、キッチンカーに来てもらっている。館内では飲食ができないという制約との兼ね合いで、可能な限り行うというかたちになる。

副会長

ギャラリーの使用料は徴収しているのか。

事務局

１日あたりの所定の料金をいただいている。

委員

基本運営方針３の資料調査を継続的にされているということについて、未指定文化財調査に力を入れているということだが、企画展「石山寺」などにその成果が結実したのは大きい功績である。大津には多くの寺社があり、すでに調査に入っている研究者がいると思うが、

歴史博物館の学芸員とそれらの研究者との連携し、新たな事実（成果）が市民に還元されるよう期待したい。

p５の収蔵資料の充実に関連するが、博物館の機能の一つに（資料の）緊急避難場所としての機能があるが、石山寺の多宝塔が雨漏りしたときに、迅速に動いて多宝塔の仏像が大津歴博に寄託された。

また、緊急で燻蒸できる体制とあるが、燻蒸のガスが生産中止になると聞いた。代替案等はあるのか。

事務局

生産中止になるガスはカビも虫も排除できるガスであった。代替品はあるが、現状では、関西ではその実施体制が整っていない。来年度中は現在のガスでなんとか燻蒸できると思うが、その後は不透明である。炭酸ガスなど少し効果が落ちるが、それらをうまく組み合わせてなんとかしていかないといけないと思う。

委員

資料を保管しているすべての機関の問題だが、資料所蔵者の安心にもつながると思うので、なんとかがんばってほしい。

事務局

他館だけでなく、文化財所有者とも情報共有を図っていきたい。

委員

IPM などの新しい手法を積極的に活用してもらいたい。燻蒸を行うにあたって、安全対策はされているのか。また、地震対策や消防署の立ち入り検査は受けているか。

事務局

燻蒸庫があるが、安全上問題があるので使用していない。現在は、博物館内の一室で燻蒸を行っている。燻蒸は専門の業者に委託しており、安全対策は業者と連携を図っている。

ハロンガスが廃止になった時点で、博物館の保存環境についての考え方が変わり、IPM を取り入れて常に環境をチェックするようになった。新しく資料を館外から借用する場合は、環境を汚染しないように燻蒸するようにしている。

地震対策については、収蔵庫に落下防止用のネットを取り付けるなど体系的に取り組んでいる。消防や防災設備点検は年２回行っている。

会長

今後の５年間の新しい活動目標の部分を含めて各委員から意見を聞きたい。

委員
　京都国立博物館の場合、燻蒸用の部屋で燻蒸しており、薬剤が変わると部屋の構造（環境）も変える必要が出てくると聞いたことがる。この点はどうか。

事務局
　現在は部屋のなかにテントを組んで燻蒸している。今後薬剤と部屋の環境を勘案して行うつもりである。関西に扱う業者がないのが問題である。他館と情報共有しているが、なかなか難しい状況である。

委員
　ｐ７のインバウンド対策だが、現在外国の方がどれくらい来館しているのか。

事務局
　数字としてはなかなか調べるのは難しいが、大津自体が京都の近くなので少しずつ外国人が増えていると聞いている。しかし、当館への来館者はあまり多くないと感じる。
　多元化も必要だが、来館された外国の方に何を見てもらうのかということを考えないといけないと思う。歴史というよりも大津絵などの美術資料が対象になると思う。具体的な取り組みとしてはなかなかアイデアが浮かんでこないので、意見を頂戴できればと思う。

委員
　パンフレットの多言語化より、大津絵のワークショップなどの体験がよいのでは。観光との結びつきも利用すればよい。

会長
　資料調査等で他大学との連携するのはよいことである。教育関係など高校や企業などとの連携をとっていけるとよい。

委員
　子どもたちが博物館へ足を運ぶのは、ギャラリー利用で子供たちの作品が展示されているついでに常設展を見学するのが一番多い。そういう意味では博物館の良さが出ている。また、３年生の「昔のくらし」（の単元）、職業体験、自由行動としての拠点で博物館が利用されている。中学生が博物館を利用して歴史に対して知識を深めるのは非常に意義がある。
　若い世代に向けて、ホームページや短い動画、ＡＩを活用した魅力的な発信の仕方を検討すべき。子供たちの知的好奇心をくすぐるような取り組みをするのが、今後５年間では大事だと思う。

委員

小学校 150 周年に関連して、自分の住んでいる地区でも式典を行った。しかし、150 年前のものを集めるのに難儀した。それなりに地域の歴史を勉強したが、やはり当時のものはあまり残っていなかった。大津市でも各地域の歴史はあると思う。各地域の歴史を後世に伝えていければよい。

大津絵がいろんなところで見かけるが、すべて同じように見える。コミュニティセンターでも大津絵の講座があるが、何か違いがあるか。

事務局

大津絵は一般の絵画とは違い、誰でも同じように書けるのが特徴である。全部同じに見えるというのは、それだけ書きやすいということ。博物館で展示している大津絵は時代ごとに描き方等差異があるものを展示している。

大津絵は、鑑賞というよりは自分で作って地域の歴史に触れられるということに価値があると考えている。

委員

あらゆる連携が大事だと考える。奉仕できることがあればさせていただきたい。

会長

財界含めて連携していければよい。

委員

他の機関と連携して調査とあるが、博物館以外の所有の資料はどうなのか。

大津市の発展に寄与したものを見直すことが大切である。学校などに資料が残っている可能性がある。最近は、学校や農業関係で先人が残したものを捨ててしまうことがある。それら先人の偉業を何かしら発信できる、歴史の総合センターとしての役割があるのではないか。高齢者をボランティアとして何かしら活用できるのではないか。

また、資料を保管するだけではなく、もっと公開してもらえるとありがたい。

事務局

博物館の資料だけでなく、地域の資料も調査しているが、データの公開が追い付いていない。個人の資料の調査や聞き取りも行っていきたい。学校資料も順番に確認している段階である。どの学校にどれくらいかわからないが、手探りで少しずつ行っている。また地域へこちらから積極的に発信していこうと思う。

年度内に第２回協議会を開く予定である。そこで、本日頂戴した意見をもとに、修正案を提示するので改めて最終的なご議論をいただいて今後５年間の方針を決めたい。